

江戸文化研究会

9月以降の行事予定

	テーマ	日程	会場	申込期限	ページ
第64回	江戸のひと節 ～榊家山春 コンサート&お稽古～	9月 29日(日)	文京総合 福祉センター 江戸川橋4階 地域活動室	9月20日	2/5
第65回	講演会 「江戸の祝祭～天下祭と大型祭礼～」	10月 20日(日)	文京総合 福祉センター 江戸川橋4階 地域活動室	10月10日	3/5
第66回	春風亭笑好 落語独演会 ～「片棒」&「江戸の茶碗」～	11月 16日(土)	文京総合 福祉センター 江戸川橋4階 視聴覚室	11月7日	4/5
第67回	講演会 「歌麿&写楽のプロデューサー、 萬屋重三郎の功績」(仮題)	12月…別途 お知らせ	別途お知らせ	別途お知らせ	5/5
第68回	国立劇場 初春歌舞伎鑑賞会	2025年1月 11日(土)	新国立劇場 中ホール	別途お知らせ	5/5
第69回	講演会 「蘭学勃興期の立役者・平賀源内」 (仮題)	2月…別途 お知らせ	別途お知らせ	別途お知らせ	5/5

※ 参加申込み要領

① 監査懇話会メンバーの方は、担当世話人宛てにメールでお申込み下さい。

② 監査懇話会メンバー以外の方は、下記情報を明記の上 当会申込窓口宛にメールでお申込み下さい。
(会場の制約等の事情により、ご参加をお断りする場合がありますことを予めご了承ください。)

<申込窓口>

edobunka@outlook.jp

<申込メール記載事項>

- ・ お名前 (フリガナを付記して下さい)
- ・ 所属団体名・会社名等……退職した方は旧・勤務先名等
- ・ 参加希望日程・及び 行事名
- ・ 懇親会参加の有無
- ・ 緊急連絡用 携帯電話番号
- ・ 電子メールアドレス

一般社団法人 監査懇話会
江戸文化研究会

https://kansakonwakai.com/cultural_activities/edobunka-kai/

第64回 江戸文化研究会

柳家小春 コンサート&お稽古 「江戸のひと節」

日時: 9月29日(日) 14:30~17:00 その後懇親会
14:00 開場 14:30 開演

場所: 文京総合福祉センター 江戸川橋 4階 地域活動室

演奏&指導: 柳家 小春師匠

(経歴) 1990年 粹曲の柳家紫朝に入門
1966年 柳家小春の名前をいただく
2023年 落語協会 正会員

[ブログ]

・三味線草 [三味線草 \(exblog.jp\)](http://exblog.jp)

内容: 皆さんお馴染みの“柳家小春師匠”に、江戸端唄のコンサート&お稽古をお願い致しました。「粹」の二時間半をご堪能下さい。

<課題曲>

「木やり崩し」
「梅は咲いたか」

<お稽古の手順>

- ① お稽古希望の方は課題曲を選んで、希望を世話人・羽持さまに事前連絡をする。
- ② 当日世話人指示により、小春師匠の伴奏で課題曲を披露する。
* 希望者の数が多い場合は世話人が調整します。悪しからずご了承ください。
- ③ 小春師匠の講評
- ④ 順番で希望者が世話人の指示で交代披露をする。
* 小春師匠の三味線で端唄が披露できます。カラオケではなく、生三味線です！

会費: 3,000円

懇親会: 講演・見学終了後、有志による懇親会を予定いたします。

【懇親会費】4,000円

参加申込時に併せてお申込み下さい。

申込み: 懇親会参加の有無を含めて、9月20日(金)までにメールにて申し込みください。

<申込み要領>

下記の申し込み要領1~3を明記してメールで送付をしてください。

1. 「柳家小春 江戸端唄のコンサート&お稽古」に申し込みます。
2. 懇親会も含めて申し込みます。
3. 課題曲〇〇〇のお稽古を申し込みます。

<課題曲>

課題曲(1) 木遣りずし

(129) 柳家小春 俗曲「木遣りずし」 -
[YouTube](#)

格子造りに ご神燈下げて
兄きや家かと 姐に問えば
兄きや2階で木遣りの稽古
音頭取るのは アリヤ 家の人
* エンヤラヤ サノヨーイサ エンヤラヤ
エンヤラヤレコノセー
サノセー アレワサ エンヤラヤー
つねりや紫 食いつきや紅よ
色で仕上げた 私の身体
* くり返し

目出度 目出度の若松様よ
枝も栄えて アリヤ 葉も繁る
* くり返し



課題曲(2) 梅はさいたか

柳家小春 端唄「梅は咲いたか」(youtube.com)

梅は 咲いたか桜はまだかいな
柳やなよなよ風しだい
山吹や浮気で 色ばっかりしよんがいな

あさりとれたか蛤やまだかいな
鮑くよくよ片想い
さざえは愠気で 角ばっかりしよんがいな

柳橋から小船を急がせ
舟はゆらゆら棹しだい
舟から上がって土手八丁 吉原へご案内

コロナ対策:ご参加の方は、下記をご徹底ください。

- 会場内では常時マスクの着用を励行してください。
- 近距離での会話や大声での発声をお避けください。

世話人: 羽持 彰

第 65 回 江戸文化研究会

講演会 「江戸の祝祭～天下祭と大型祭礼～」

日時: 10月20日(日) 14:30～17:00 その後懇親会
14:00 開場 14:30 開講

場所: 文京総合福祉センター 江戸川橋 4階 地域活動室

講師: 立教大学特任准教授 滝口 正哉氏
(経歴)

1973年: 東京都生まれ

1996年: 早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒業

2005年: 立正大学大学院 文学研究科 史学専攻博士後期課程

2019年～: 国立民族学博物館 共同研究員

2020年～: 立教大学 文学部学校・社会教育講座 特任准教授

(主要著書)

『千社札にみる江戸の社会』(同成社)

『江戸の社会と御免富』(岩田書院)

『江戸の祭礼と寺社文化』(同成社)

編書『赤坂氷川神社の歴史と文化』(都市出版)

内容: 10月度の江戸文化研究会はいよいよ江戸の祭礼にまつわるお話です。江戸の町民文化を語る際に、祭りは重要なイベントです。将軍家のお膝元の江戸で、江戸町民の生活に祭りや寺社がどの様に関わってきたのかを最新の研究の視点を交えて丁寧に解説します。「江戸の祭礼」がテーマになるのは当江戸文化研究会では今回が初めてです。講師をお願いするのは、江戸文化研究者である立教大学滝口正哉様です。滝口様は江戸文化と祭礼に関わる多くの著作・論文を著しているだけでなく、種々のセミナーを通じて「一人でも多くの江戸文化ファンを生み出したい」とおっしゃっている新進気鋭の若手研究者です。この機会を利用して江戸祭礼の魅力に浸ってみませんか。以下は講師の滝口様からの講演会のポイントに関するメッセージです。江戸の祭礼は、将軍の上覧のあった山王祭・神田祭を軸に、赤坂氷川明神・浅草三社権現・富岡八幡宮・赤城明神・青山熊野権現など、山車や附祭(余興としての造り物・練り物・仮装行列など)をともなった大行列を仕立てた巡行を行う祭礼が主流でした。今回は山車・附祭を中心とする江戸型祭礼の実像に迫ってみたいと思います。

会費: 3,000円

懇親会: 講演・見学終了後、有志による懇親会を予定いたします。

【懇親会費】4,000円

参加申込時に併せてお申込み下さい。

申込み: 懇親会参加の有無を含めて、10月10日(木)までにメールにて申し込みください。



コロナ対策:ご参加の方は、下記をご徹底ください。

- 会場内では常時マスクの着用を励行してください。
- 近距離での会話や大声での発声をお避けください。

世話人: 檜原 章二

第66回 江戸文化研究会

春風亭笑好 落語独演会 ～『片棒』 & 『井戸の茶碗』～

日時: 2024年11月16日(土) 15:00開演 (14:30開場)

場所: 文京総合福祉センター 江戸川橋 4階 視聴覚室

出演: 春風亭笑好師匠

(経歴)

1973年 さいたま市北区(旧大宮市) 出身

2000年 9代目春風亭小柳枝(こりゅうし)門下に入門

2004年 二つ目昇進 春風亭笑好

2013年 真打昇進

※ 公益社団法人落語芸術協会(会長:春風亭昇太)に所属

演目: 『片棒』<Wikipediaより抜粋>

石町(こくちょう)に店を構える赤螺屋の主人・ケチ兵衛は、3人の息子のうちひとりに店の経営と資産を譲ろうと思い、まず番頭に「俵の内誰が跡を取ったら家が益々栄えるか番頭の目を通して言ってもらいたい」と問うと番頭は、「生涯に一度二度かの御当家の一大事にどう金を案文するかお試しになってはどうでしょうか?」と提案。

主人はこれを受け入れて、3人の金銭感覚を試すために、「一生に一度ものだ」と少し悩み、「もし私が明日にでも目をつむったら、後の始末(葬式)はどうするつもりか聞かせてもらいたい」とそれぞれに質問した。

長男・松太郎は、立派な葬式を出すべきだ、と言う。通夜は参列者が多く、ひと晩では裁ききれないからふた晩行い、本葬は50人の僧侶に読経させ、会葬客の食事は豪華な重箱詰めにし、重箱を包む風呂敷も別染めにして誂え、東西の酒を揃え、客の帰りには高額な交通費や豪華な引き出物を渡すべきだ、と言って主人を呆れさせる。

次男・竹次郎は、葬式は粹に色っぽくやるべきだ、と主張する。町内中に紅白の幕を張り巡らせて、カシラ連中による木遣唄や、芸者衆の手古舞ではじめ、ソロバンを持った主人そっくりのからくり人形を載せた山車や、主人の遺骨を積んだ神輿を神田囃子に合わせて練り歩かせ、花火を打ち上げて落下傘をつけた位牌を飛ばす、といったものだ。終いには、万歳三唱を交えた滑稽な弔辞を読むまねをするに至って、部屋から追い出される。

三男・梅三郎は兄たちと反対に極端なケチで、「死骸はどこかの高い丘にほっぽり出して、鳥につつかせましょう」と言う。さすがに主人が同意しかねると、しびしび通夜を出す案を話す。「出棺は10時と知らせておいて、本当は8時ごろに出してしまえば、お客様のお茶菓子やお食事はいらないし、持ってきたお香典だけこっこのものにすることができます。早桶は物置にある菜漬けの樽を使いましょう。樽には荒縄を掛けて天秤棒を差して、片棒は私が担ぎますが、ひとりでは担げませんから、もう片棒は人を雇ったほうが……」と言うと、そこで、……。

『井戸の茶碗』<Wikipediaより抜粋>

正直者で知られる屑屋の清兵衛が流し歩いていると、なりは粗末なだが器量のよい上品な娘に呼び止められる。裏長屋へ入っていくと娘の父親がいて、仏像を引き取ってもらいたいと清兵衛に頼む。父親の千代田ト斎はもとは良い武家の出ながら、今は屋は素読の指南、夜は売トをして、年頃の娘とふたりで貧しい暮らしをしていた。目利きに自信がない清兵衛は、安く買っても申し訳ないとして断るが、結局200文で引き取り、それ以上の値で売れたら儲けを折半するということになる。

清兵衛が仏像を籠に入れて歩いていると、目黒白金の細川屋敷の長屋下で高窓から外を眺めていて仏像に気がついた若い武士・高木佐久左衛門に声をかけられる。高木は仏像を300文で買うが、清兵衛が帰った後 仏像を磨いていると、台座の下の紙が破れて中から小判50両が出てくる。高木は仏像を買ったのであって中の50両を買ったわけではないからと、仏像を返すため、翌日から長屋下を通る屑屋に声をかけては顔を改め始める。

やがて屑屋達の間で、高木の顔改めが話題となり、仇を捜しているなどの噂が飛び交う。そこへ清兵衛が現れ仏像の件を話すと、仲間は仏像の首が折れて縁起が悪いから、それを売った屑屋の首を打とうとしているの



ではないかと無責任なことを言う。否定もできないため、清兵衛は次から細川屋敷を素通りするようになるが、ある日、うっかり掛け声を出してしまい、高木に気づかれる。怯えながらも高木に招かれた清兵衛は、そこで50両のことを明かされ、快く高木の頼みを引き受けて50両を千代田の家へ持っていく。しかし、話を聞いた千代田は、気づかなかつたのは自身の不徳のいたすところであるからこの金は既に自分のものではないと言って受け取らない。清兵衛は金を持ったまま高木の元へ帰るが高木も頑として受け取らない。行ったり来たりで仕事にならずに清兵衛が困っていると、長屋の大家が仲介を買って出て、千代田と高木にそれぞれ20両、苦労した清兵衛に残りの10両でどうかと提案する。高木は承諾するも、頑固な千代田はこれも拒絶するので、大家は千代田に、ただ金を受け取るのが嫌なら何か20両のかたになるものを高木に渡し、商いという形にしたらどうかと再提案する。さすがに千代田も折れ、父の形見として残っていた小汚い茶碗を高木に譲ることで、一件落着する。

この話が細川家中に広まると、感心した細川侯は高木を目通りを許す。その際に茶碗も見たいと言うので高木が茶碗を持って行くと、目利きの者がこれは「井戸の茶碗」という名器だと告げ、細川侯は300両でこの茶碗を買い上げる。高木は茶碗はあくまで20両の形だから割に合わないとし、少なくとも150両は千代田に返すべきだと、再び清兵衛を呼びつける。だが、千代田はこれを断るので、清兵衛は何か150両の形はないかと尋ねると、千代田は娘を高木に嫁がせ、その支度金とすることを思いつく。清兵衛から話を聞いた高木は、この提案を快く受ける。そこで清兵衛が、今は裏長屋で粗末ななりをしているがこちらへ連れてきて一生懸命磨けば見違えるようになるだろうと娘のことを話す。

そこで、……。

会費: 3,000円

懇親会: 講演・見学終了後、有志による懇親会を予定いたします。

【懇親会費】4,000円

参加申込時に併せてお申込み下さい。

申込み: 懇親会参加の有無を含めて、11月7日(水)までにメールにて申し込みください。

コロナ対策: ご参加の方は、下記をご徹底ください。

- 会場内では常時マスクの着用を励行してください。
- 近距離での会話や大声での発声をお避けください。

世話人: 飯盛 孝夫

第67回以降の予定

【第67回 江戸文化研究会】

講演会 「歌麿&写楽のプロデューサー、萬屋重三郎の功績」(仮題)

場所: 別途お知らせ……12月7日 or 8日 or 14日を軸に調整中

講師: 江戸料理文化研究所代表・時代小説家・国際浮世絵学会会員 車 浮代氏

【第68回 江戸文化研究会】

国立劇場 初春歌舞伎鑑賞会

日時: 2025年1月11日(土)……日程確定

場所: 新国立劇場 中ホール ……演目等詳細未定なるも、40席 仮予約済……

出演: 尾上菊五郎、尾上菊之助、他

【第69回 江戸文化研究会】

講演会 「蘭学勃興期の立役者・平賀源内」(仮題)

場所: 別途お知らせ……2025年2月の土・日を軸に調整中

講師: 国立科学博物館 名誉研究員 鈴木 一義氏